

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-095619

(43)Date of publication of application : 02.04.2002

(51)Int.Cl.

A47L 13/20

(21)Application number : 2000-287834

(71)Applicant : NAKATANI KAORU

(22)Date of filing : 22.09.2000

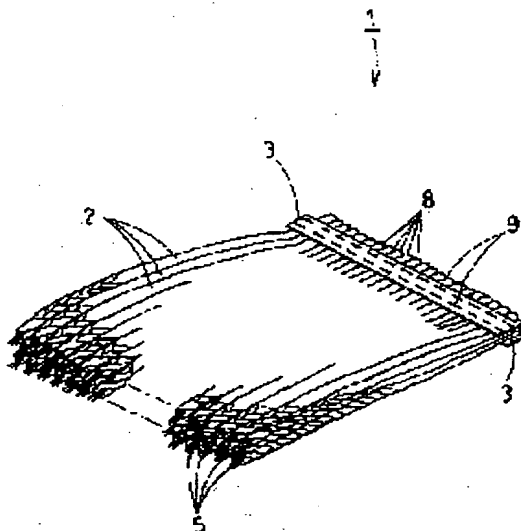
(72)Inventor : NAKATANI KAORU

(54) SWEEPING BODY FOR MOP AND ITS MANUFACTURING METHOD

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a sweeping body that can be produced at a lower cost because of its simple structure and repeatedly used because the sweeping strings hardly become tangled, and its manufacturing method.

SOLUTION: This sweeping body 1 for a mop has a number of sweeping strings 2 which are attached together at one end. The major features are that it uses braided fiber strings as the sweeping strings 2, and that the braiding starts at the free end 5 and finishes at the other end 8, where a long base cloth 3 is attached, just before the very end, with a thread 9, to bind each string. Besides, in this sweeping body 1 for a mop, a number of braided fiber strings are arranged in parallel with each other, and some part near one end is attached together along the string aligning direction, and the cut end comes just over the attached part, downstream in the braiding direction.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2002-95619
(P2002-95619A)

(43) 公開日 平成14年4月2日(2002.4.2)

(51) Int.Cl.⁷
A 4 7 L 13/20

識別記号

F I
A 4 7 L 13/20

テームト(参考)
C 3 B 0 7 4

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2000-287834(P2000-287834)

(22) 出願日 平成12年9月22日(2000.9.22)

(71) 出願人 591188310

中谷 馨

和歌山県海南市溝ノ口37

(72) 発明者 中谷 馨

和歌山県海南市溝ノ口37

(74) 代理人 100047831

弁理士 杉本 巖 (外1名)

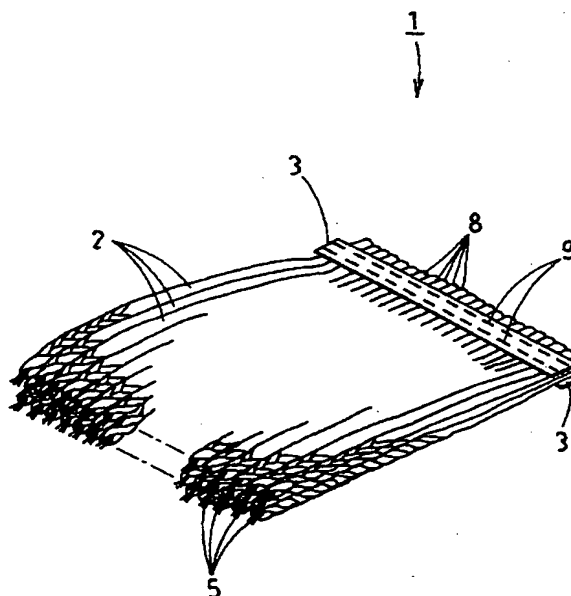
Fターム(参考) 3B074 AA01 AA02 AB04

(54) 【発明の名称】 モップ用払拭体およびその製造方法

(57) 【要約】

【課題】 簡単な構成により安価で済み、払拭条同士が絡まりにくく何回も繰り返し使用することのできるモップ用払拭体およびその製造方法を提供すること。

【解決手段】 モップ用払拭体1は、多数の払拭条2、2、2、・・・がそれぞれの末端部分で固着されてなるものにおいて、繊維系をかがり編みしてなる紐条を払拭条2として用いるとともに、紐条の編み出し部分5を自由端とし、紐条の編み終わり部分8の直前部分を末端部分として長尺基布3とともに縫糸9で固着したものである。このモップ用払拭体1は、繊維系をかがり編みしてなる多数の紐条を略平行に並べて配置し、それぞれの紐条の編成途中部分を紐条並べ方向に沿って固着し、固着直後の編成方向下流側位置でそれぞれの紐条を切断して得られる。



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】 多数の払拭条がそれぞれの末端部分で固着されてなるモップ用払拭体において、繊維系をかがり編みしてなる紐条を払拭条として用いるとともに、紐条の編み出し部分を自由端とし、紐条の編成途中部分ないし編み終わり直前部分を末端部分として固着したことを特徴とするモップ用払拭体。

【請求項2】 繊維系をかがり編みしてなる多数の紐条を略平行に並べて配置し、それぞれの紐条の編成途中部分を紐条並べ方向に沿って固着し、固着直後の編成方向 10 下流側位置でそれぞれの紐条を切断してモップ用払拭体を得ることを特徴とするモップ用払拭体の製造方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、多数の払拭条を有するモップ用払拭体およびその製造方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 一般に、水拭きに用いるモップ用払拭体 5 1 は、図 6 に示すように、その末端部分が一對のホルダ 5 3、5 3 で挟みつけられ、更にホルダ 5 3、5 3 の 20 両側がモップ柄 5 4 のクランプ 5 5 で把持されて使用される。モップ用払拭体 5 1 を構成する払拭条 5 2 は、図 7 に示すように、多数の燃糸 5 7 からなっている。

【0003】 ところで近年、掃除作業業務は作業全体のスピードアップや効率化が要求されてきた。そのため、汚れたモップ用払拭体 5 1 の洗浄にあたっては、モップ柄 5 4 からモップ用払拭体 5 1 を取り外したのち、ある程度まとめて洗濯機で機械洗いするようにしている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、従来のモップ用払拭体 5 1 を洗濯機で洗うと、燃糸 5 7 の先端がほつれ、ほつれた部分同士が複雑に絡み合ってしまう。そのため、洗濯後の絡みをほどこ作業に多大な労力と時間を浪費することがある。また、最悪の場合、払拭条 5 2、5 2、5 2、…同士が団子状となって、モップ用払拭体 5 1 全体が使い物にならなくなることがある。一方で、繊維系に熱可塑性合成繊維を混入したものを加熱処理して繊維系を間接的に接着させることにより、ほつれ防止を図るように工夫した糸条も知られている。ところが、かかる糸条は複雑な製造工程を必要とし製造コストが高つくため、無造作に大量消費される払拭条用としては不向きである。

【0005】 本発明は、上記した従来の問題点を鑑みてなされたものであって、簡単な構成により安価で済み、払拭条同士が絡まりにくく何回も繰り返し使用することのできるモップ用払拭体およびその製造方法の提供を目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するため 50

に、本発明に係るモップ用払拭体は、多数の払拭条がそれぞれの末端部分で固着されてなるモップ用払拭体において、繊維系をかがり編みしてなる紐条を払拭条として用いるとともに、紐条の編み出し部分を自由端とし、紐条の編成途中部分ないし編み終わり直前部分を末端部分として固着した構成にしてある。

【0007】 また、本発明に係るモップ用払拭体の製造方法は、繊維系をかがり編みしてなる多数の紐条を略平行に並べて配置し、それぞれの紐条の編成途中部分を紐条並べ方向に沿って固着し、固着直後の編成方向下流側位置でそれぞれの紐条を切断してモップ用払拭体を得るようにしたものである。

【0008】

【発明の実施の形態】 本発明の実施の形態を図面に基づいて説明する。図 1 は本発明の一実施形態に係るモップ用払拭体を示す一部省略した斜視図、図 2 は前記モップ用払拭体を示す一部省略した平面図である。但し、図 6 に示した従来のモップ用払拭体と同一の構成要素には、同一の符号を付すとともにその詳細な説明は省略する。各図において、この実施形態に係るモップ用払拭体 1 では、条芯方向（矢印 C 方向）を揃えた多数の払拭条 2、2、2、…がその条芯方向と直角の方向に並べて配置されている。これらの払拭条 2、2、2、…はそれぞれの末端部分が払拭条並べ方向に沿って配置した 2 枚の長尺基布 3、3 間に縫糸 9 で固着されている。

【0009】 特に、このモップ用払拭体 1 では、図 3 に示すように、例えば綿・レーヨン混紡の繊維系 4 をかがり編みしてなる紐条 2 a が払拭条 2 として使用されている。繊維系 4 としては吸水性があって洗濯しやすく耐久性の高いものであれば、特に限定されないが、例えば綿糸や綿・レーヨン混紡糸などが挙げられる。この場合、紐条 2 a は、かがり編みの編み出し部分 5 が自由端とされ、編み終わり部分 8 の直前部分 7 が末端部分として長尺基布 3、3 に縫着されている。尚、紐条 2 a の長尺基布 3 への固着位置は編み終わり部分 8 の直前部分 7 に限らず、編成途中部分 6 であっても構わない。

【0010】 上記構成によるモップ用払拭体 1 は、図 4 s に示すように、長尺基布 3、3 の部分を一對のホルダ 5 3、5 3 で挟みつけたのち、ホルダ 5 3、5 3 間を連結バー 5 6 で係止し、更にホルダ 5 3、5 3 側面の凹嵌部分をモップ柄 5 4 のクランプ 5 5 で把持して使用される。

【0011】 上述したように、この実施形態のモップ用払拭体 1 は、払拭条 2 の素材としてかがり編みの紐条 2 a を用いた簡単な構成であるにも拘らず、紐条 2 a 自体が嵩高いので吸水量は十分に確保できる。そのうえ、かがり編み自体は編成方法が簡素であるので機械編みしやすく、安価で済む。また、かがり編みの編み出し部分 5 は繊維系 4 の先端が引っ張られると、いっそう締まってほつれにくくなる。更には、長期の使用により、あるい

は急に大きな力がかかったりして、紐条2aが途中で切れたとしても、残った紐条2aの切断端は必ず編み出し部分5となるので、常に紐条2aはほつれない。従って、清掃作業中や洗濯時に払拭条2, 2, 2, ...同士が絡まったり団子状になったりしない。そのため、従来のような洗濯後の絡みをほどく作業が不要となるから多大な労力と時間を浪費するといったことがなく、数多く繰り返し使用することができる。

【0012】上記のように優れたモップ用払拭体1は、図5のようにして製造することができる。先ず、矢印C方向に直線状にした多数の紐条2a, 2a, 2a, ...をほぼ平行に並べて配置する。次に、これらの紐条2a, 2a, 2a, ...の編成途中部分に長尺基布3を直角の方向（紐条並べ方向）に交差させて縫糸9で一体に縫着する。そして、縫着直後の編成方向下流側位置（2点鎖線の切断線10で示した位置）で紐条2a, 2a, 2a, ...を裁断機（図示省略）により切断する。このとき、切断線10を境に、編み終わり部分8と次の編み出し部分5が新たに生じる。かかる編み終わり部分8に繊維系4のほつれが生じたとしても、直前の縫着部分でほつれが止まる。一方、次の編み出し部分5では繊維系4が自ずから締縛するので、編み出し部分5のまつり作業を必要としない。これにより、後処理を行う必要がなく、切断により直ちにモップ用払拭体1が得られるのである。

【0013】尚、上記の実施形態における払拭条と長尺基布の固着態様としては、頑丈で作業しやすい縫着を例示したが、本発明はそれに限定されず、例えば熱可塑性の合成繊維系や長尺基布を使用する場合は、払拭条と長尺基布とを熱溶着で固着しても構わない。

【0014】また、上記では多数並べた紐条の末端部分を長尺基布とともに縫着したが、長尺基布を用いることなく紐条の末端部分だけで相互に固着するようにしてもよい。また、上記では長尺基布3の片側だけに払拭条2, 2, 2, ...を延在させたものを例示したが、図2で示すように、長尺基布3をはさんだ反対側にも払拭条2, 2, 2, ...（2点鎖線で示した）を延在させて両房状に形成したモップ用払拭体も本発明に含まれる。

【0015】

【発明の効果】以上詳述したように、本発明に係るモップ用払拭体によれば、払拭条の自由端がかがり編みの編み出し部分であり、かつ、末端側となる固着位置が編成途中部分ないし編み終わり直前部分であるので、払拭条

がほつれない。従って、清掃作業や洗濯時に払拭条同士が絡まりにくい。そのため、従来のような絡みをほどくために多大な労力と時間を浪費するといったことがなく、何回も繰り返し使用することができる。

【0016】また、本発明に係るモップ用払拭体の製造方法によれば、切断により新たに生じた編み出し部分の繊維系は自ずから締まるので、編み出し部分のまつり作業を必要としない。これにより、切断により直ちにモップ用払拭体を得ることができ、後処理を必要としない。すなわち、本製造方法は、モップ用払拭体を次から次へと連続的に製造することができ、大量生産向きの製法として極めて有用である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施形態に係るモップ用払拭体を示す一部省略した斜視図である。

【図2】前記モップ用払拭体を示す一部省略した平面図である。

【図3】前記モップ用払拭体の払拭条を構成する紐条を示し、(a)は紐条を一面から見た図、(b)は紐条を他面から見た図、(c)は(b)の紐条の編み組織図である。

【図4】前記モップ用払拭体の使用態様を示す説明図である。

【図5】前記モップ用払拭体を製造する態様を示す説明図である。

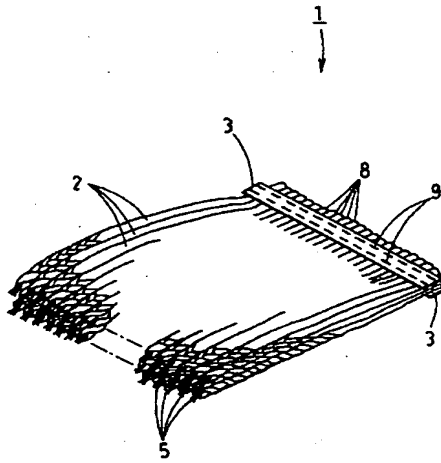
【図6】従来のモップ用払拭体の使用態様を示す説明図である。

【図7】従来のモップ用払拭体の払拭条を示す拡大図である。

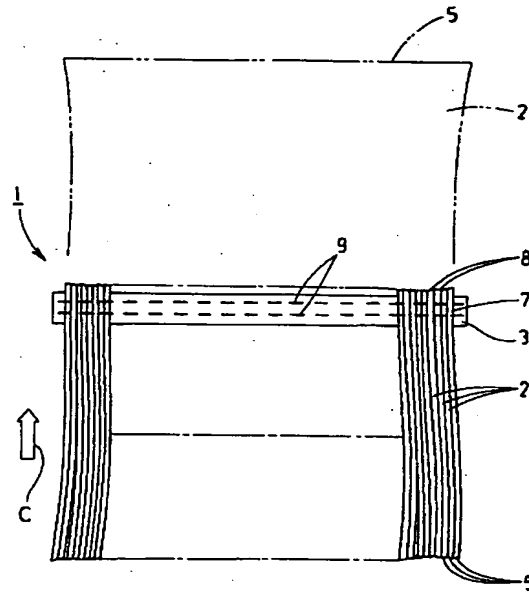
【符号の説明】

- | | |
|----|---------|
| 1 | モップ用払拭体 |
| 2 | 払拭条 |
| 2a | 紐条 |
| 3 | 長尺基布 |
| 4 | 繊維系 |
| 5 | 編み出し部分 |
| 6 | 編成途中部分 |
| 7 | 直前部分 |
| 8 | 編み終わり部分 |
| 9 | 縫糸 |
| 10 | 切断線 |
| C | 矢印 |

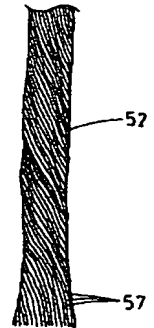
【図1】



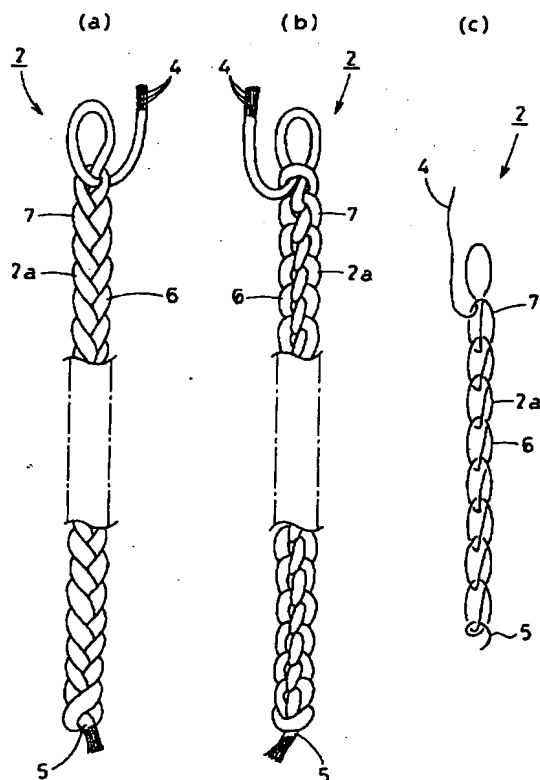
【図2】



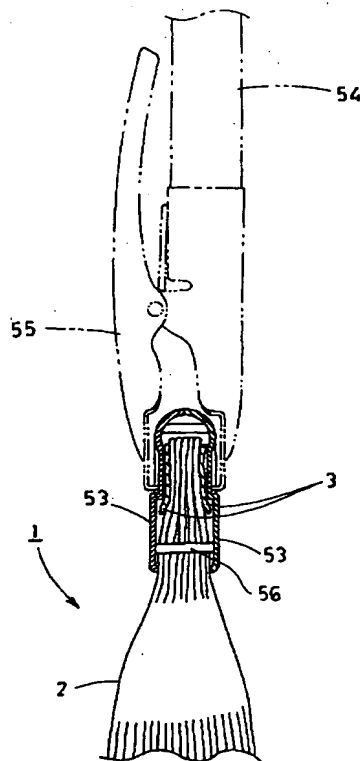
【図7】



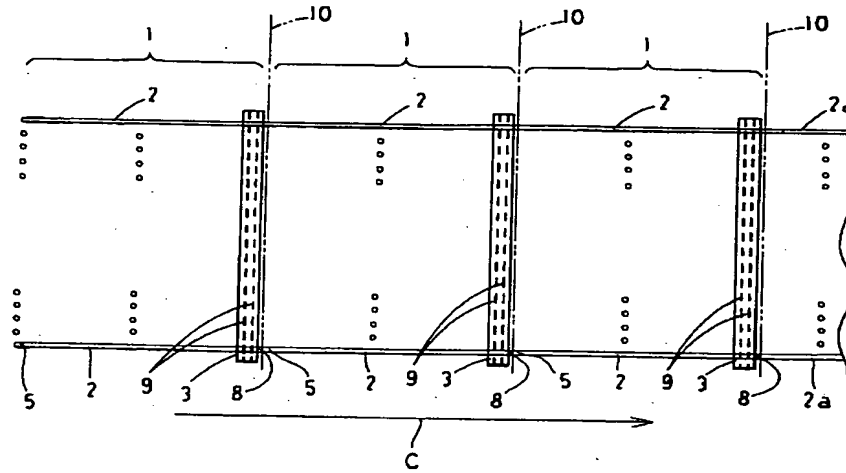
【図3】



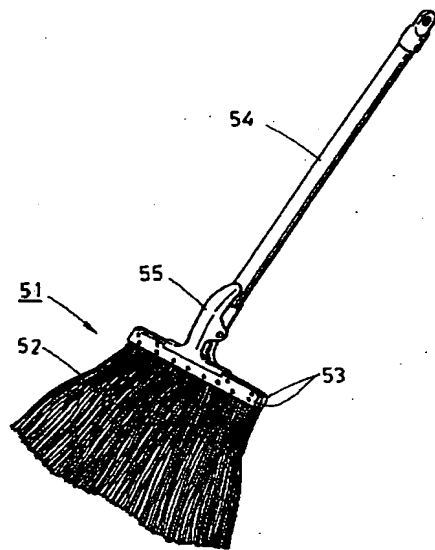
【図4】



【図5】



【図6】



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record.**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☒ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.